

平成30年度 第1回 府中市子ども家庭支援センター運営会議録

1 日 時 平成30年7月4日（水）午後2時～午後4時

2 会 場 府中市子ども家庭支援センター「たち」ミーティングルーム

3 出席者 <委員>

西郷会長、大伴副会長、河野氏、鈴木氏、山科氏、石井氏、清水氏、
成川氏、玉置氏、糟谷氏、肥後氏、石田氏、市川氏、吉田氏、若林氏

<事務局>

（府中市子ども家庭支援センター）

市ノ川子育て支援課主幹兼子ども家庭支援センター所長、
伊藤同センター相談担当主査、原田事務、笹原相談員、保坂事務
（多摩同胞会）

畑山センター長、寺嶋センター次長

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議事事項

- (1) 平成28年度・平成29年度府中市子ども家庭支援センター事業実績について
- (2) 府中市子ども家庭支援センター事業進捗状況及び自己評価について

7 議事内容

- (1) 平成28年度・平成29年度府中市子ども家庭支援センター事業実績について
ア 平成28年度・平成29年度府中市子ども家庭支援センター事業実績について、資料2に基づき、事務局より説明。

イ 質疑応答、意見等

委 員 母児デイケア事業について、ニーズが高まっていると思うが利用者0名の理由は何が考えられるのか。

事務局 ニーズが高い事業ではあるが、子ども家庭支援センターでの把握は困難である。今後、ニーズ把握に向け健康推進課が実施している産後の新生児訪問との連携について検討する。また、利用には繋がらなかったが、相談や面接の実績はある。

委 員 母児デイケア事業について、0名では実施していない印象がある。見学者などの記載があるとよい。また、子育て支援ボランティア養成講座について、希望に応じて随時実施とあるが、曜日や時間はどうなっているのか。

事務局 曜日や時間を工夫してみたが、参加者が少ない。今後、ボランティアセン

ターと連携した実施を検討する。

委員 母児デイケアとは何か。

事務局 母親と子どもが一緒に日中過ごせる場所を提供すること。

事務局 スタッフが多く、親子に対して育児の指導や、支援的な関わりを密にする。

ひろばは、比較的自由に遊んでもらう場だが、母児デイケアは、子どもへのアドバイスや、育児のアドバイスをするような手厚い支援が受けられる場所になっている。

会長 母児デイケアについて詳しくわからないが、デザインを変えたほうが良いと思う。

イギリスのやり方が適応するかどうかという問題もあり、府中流でいいと思うが、イギリスでは1～2か月家族揃って暮らしながらトレーニングを24時間受けられる機関がある。トレーニングといっても、子どもを学校と保育園に送り出し、食事の準備をするなど基本的な生活の技術を学ぶ。日本で実施している機関は少なく、母子生活支援施設や児童養護施設では実施していないと思う。母子生活支援施設などが実施し始めたが、思うように軌道に乗り切れていないところもある。日本でも進めてほしい事業であり強化してほしいと思う。

また、ボランティアについては、社会福祉協議会との提携はとてもいいと思うが、自主的な活動のためボランティア養成講座が終わった後フリーになることが多い。練馬区では、講座中に何をしたいか自身で考え関係機関の人に来てもらい見学に行くなどしている。講座実施時に、参加者が子育て支援のことで関心があるとか、高齢者の支援に関心があるとか関心別に分け、現場で活動するまでコーディネートする形があればと思う。

事務局 ファミリー・サポート・センター事業の提供会員については、この講座を受けることが必須になっている。ボランティアの力添えが非常に必要であり、社会福祉協議会含め、様々な機関が繋がるよう検討する。

また、母児デイケア、母児ショート事業については、今年度に入り健康推進課と調整している。イギリスの事例も含め、産後ケアがうまくいけばと考えている。

委員 健康推進課では、国が示している産後ケアについて、早期的に導入可能か検討している。また、課題としては、養育困難なところをこちらの保健事業で初年度から展開していくことは難しい。

委員 ひろば事業や子育て講座など実施しているにしては、市民の人たちに浸透していないように思う。募集方法や会場など工夫が必要に思う。

ひろば事業は、28年度7,000人、29年度5,000人と、延べ2,000人減少している。親の就業状況などあるかもしれないが、原因をもう少し調べるといいと思う。例えば、参加した人たちに対してアンケート実施や、どういうことを希望しているかなど。子育て講座のやり方も、ようこそ赤ちゃんや2歳児イヤイヤとか、いいものがあるにしては、すごく少な過ぎる。もっと困っている親はいると思うからこそもっとないと思う。

事務局 ひろばについては、数字だけ見ていると、減少していると思われるが、決して利用者が少ないわけではなく1日200組ぐらいの利用がある。また、市内に常設のひろばが2か所開設するなど色々なところで遊ばれ分散傾向にある。職員が、お母さん子どもに目を向ける、気持ちを向けるには、利用者数が多いぐらいかと思う。そういう意味では、数字だけでは図れなく、お母さんたちの子育てに関する不安や負担、大変なところを少しでも軽減できるよう取り組んでいる。

講座、交流会に関しては、年齢や月齢での募集と限定的であり定員を設けているため人数が少ないように見えるため、多くの人が参加しやすいように検討していく。

募集については、ポスター掲示やチラシ配布、広報掲載を行っている。

アンケートについては、各事業等利用された方に対してアンケートを実施。回答を参考にしながら、翌年度の内容について検討している。参加者の意見としては、府中は転入者が多く、交流会を例にすると、お母さん友達をつくりたいニーズが非常に高い。そういったお母さん同士がお話ができるようになることを目標としている。また、親の意見がすぐに反映できるような方法を検討する必要がある。

委員 事業実績という、まず数字が出てきてしまう。逆に数字からは見えてこない利用者の声や反響など、参考になった意見があれば紹介してほしい。

事務局 親支援事業に関して、非公開事業ではあるが、「いらいらして子どもを叩きそうだ」とか、そういったお母さん達が集まり少人数のグループで話し合いをする。参加者からは、「育児に悩んでいるのは自分だけではない」と思いを吐き出せたといった声がある。

ペアレントトレーニングに関して、実際に子どもとの関わり方について7回のコースで伝えている。参加者からは、「子どもとの関わりのヒントがもらえた、少し改善できた」という声がある。

育児支援家庭訪問事業に関しても、非公開事業となっている。専門相談員が訪問し、子どもの支援を行う。継続的に関わる中で、心を開き、不登校だった方が少しずつ登校できるようになるなどの効果も出ている。

会長 関連ではあるが、先程の委員の話の1つが、言い方は違うが「評価の指標がありますか」という問いな気がする。例えば、ひろば事業で参加者が増えているか減っているかだけでは評価できない。つまり、ひろば事業がうまくいっているのかを評価するための指標は何か。アンケートは結構有効で、仲間づくりがひろばでは重要なポイントになると思うが、「仲間ができましたか」というアンケート項目が入っていれば、それは十分な指標になる。「これだけよくなっています」は、簡単ではないが徐々にできていくとわかりやすく、指標がないと、進んでいるのか、進んでいないのかわからなくなる。

委員 しらとりひろばの利用人数が減っているのは、近くにある地域子育て支援センター「はぐ」北山に流れているのではないか。

委員 昨年10月のオープン時は、月平均200名から250名前後だったが、

6月は450名と倍になった。利用者に利用理由を聞くと、コミュニケーションが苦手でお友達ができにくく、保健センターやたちから紹介された方や、「保育士が遊んでくれ、園庭があり公園のように遊べ、栄養士、保健師が常駐しているから、栄養相談もすぐにできる。先生たちが私の話を聞いてくれるから、1人で来ても寂しくない」など、口コミで友達が友達を呼び膨れあがっている。

また、隣接の国立の方も喜んでおり、国立の方だけのひろばや、高齢者のひろばのきもある。利用者に聞くと、府中市出身ではない方が多く、「相談する人や遊んでくれる人がいないから、ここを紹介されて来ました」という話も聞かれた。

初めての夏休みを迎えるが、どれくらい利用者が来るかわからない。「たち」は人数制限しているが、「はぐ」は、行き場のない方が多く入場制限はできないため、保育所の中でも遊べるようにするなど工夫し、子育て中の誰もが「みんな一緒に同じ悩みを持っているからこにおいで」と伝えている。

会長 使い勝手を間違えると、府中市としての親の育て方を間違えてしまう。基本的に、ピンチな親であれば、そういう専門職の方たちがいるところに行ったほうがいい。少し見てもらい、安心で安全で、とにかくほっとしたい。自分の話だけ集中して聞いてもらうときが必要なお母さんもいるが、全てのところでそれをやるとまた違った意味になってしまう。親同士の支え合いは、別途つくっていく必要がある。お母さんたちが自分たちのニーズを踏まえ適切に利用できるよう、コーディネートすることで心強く感じられる。

委員 子育て講座について、以前、しらとりでアラフォーママの集まりを行ったら遠方からも来た。40代前後で産む方も増加傾向にあり、そういう方たちの集まりの育児支援を何処が実施するかや、「パパと遊ぼう」を保健センターで実施。とても熱心で交流も求めるが、他にお父さん向けの講座がない。お父さん向けの講座や、高齢者が集まってくる話しもあったので、「イクじい、イクばあ」の講座などあればと思う。

委員 女性センターでは、お父さんの育児参加ということで、助産師会や登録団体に協力してもらい実施している。情報を共有し協力し一緒に実施していければと思う。

会長 子育て支援の講座は、保育所も幼稚園も助産師会も実施しているだろうし、お互いこういうことを情報交換して、それぞれの団体や組織の強みを生かし、それぞれの分担をある程度はつきりさせる必要があるが、完全に「この事業はあそこだけが」とまでする必要はない。民間の団体は民間の団体の強みもあるし、行政は行政の強みもある。それぞれ強みをお互い確認し合うことで自分の強みが逆に見えてくる。そういう情報交換の場が1回でもあると、大きく違うと思う。40代のお母さんに限らず、10代のお母さんや外国人、多胎児、ひとり親、障害の方など、普通の子育て支援拠点やひろばになかなか来ない、ないしは来にくい人たちを対象にした講座だよと伝えると、関心を持つかもしれない。

委員 児童虐待が新聞でもにぎわっている。府中市ではしっかりとネットワークが構築されていると思うが、市民が「隣の家が虐待しているみたいですよ」と、最初にどこに電話すればいいのか。こういった関係の人たちが連携し、解決していくのかの流れがわかるよう広報やホームページで知らせてほしい。

事務局 市民向けリーフレットを作成し配布している。また、関係機関にはマニュアルを配布している。

委員 幼稚園では、就学前の2歳児、3歳児、5歳児が大体主だが、子どもがある程度成長してきた段階での相談が結構多い。幼稚園でもいろんな悩みを抱えているお母さんたちと、おしゃべり会みたいなものがある。その中で、誰に話していいかわからないという声が多い。いろいろな活動の話を聞いたが、悩みを解決できるような場が結構あると改めて感じた。実際、講座の情報などを携帯で得るかたがとても多いらしい。自分が抱えている悩みを相談するにはどうすればいいか検索のしかたがわからないのではないのか。

委員 私自身も結婚して府中で子育てをした。娘も子育て中で「たち」を利用している。私は、子育て支援部で府中の子育てについて学んでいる。講義や、いろいろな活動にのれない方々の支援が必要に思う。先ほどの「虐待を見つけたときどこに連絡すればいいか」は、迷ったら民生委員に連絡してほしい。

委員 各私立保育園でも、たくさんの講座など行っている。東部地域の保育園では、連携に向けて、年間講座のパンフレットを配布している。先ほど多問題家庭の増加の話があったが、いろいろと支援が必要な家族が増えてきたと思う。親が育てないといけませんが祖母、祖父が中心になった子育て家庭が増えてきたと感じる。そこを対象にした何か講座が出来ないかと思う。

また、リフレッシュ保育について、27年度に地域の一時預かり保育が利用しにくく若干増えたという分析があった。保育園としては、人材不足であり、その中で一時預かりまで手が回らない。保育園も少しずつ増えつつあり、今後も増えていくのではないかと少し予測している。

児童虐待は、27年度だいぶ個別ケースが増え、28年度になり少し役割分担を明確にすることで半数になったと聞いた。その後は、推移しているが、報告の中で「少し精査して」と言っていたが、精査の中身が少しでもわかれば、私達にも何か出来ることがあると思う。

事務局 個別ケース検討会議では横ばいもあるが、多問題家族は増えてきている。

1つの家族の中で高齢者の問題があったり障害者の問題があったりと、さまざまな背景がある。

会長 講座や親支援グループは、ある意味グループワークみたいな形で、学習の場になると思う。学習というと必ず家庭教育も出てくるかと思うが、子育て中の親への学習支援で何かあれば教えて欲しい。

委員 私が二十数年前、教員になりたてのころは、学校の中にバイクが走ったり、すごく子どもたちは大変だった。親も何とかしようというイメージが余りなく、とにかく子どもと対峙していた。今は、若い先生がすごく多く、そういった意味では親への部分というのはとても学校教育で弱く苦慮している。

また、学力を考えるうえでは、家庭教育というか、本当に宿題を小学生には毎日出す。判を押したように、できる子どもは自分でできているかというところ、お母さんがいてできているみたいなどころがある。そういうところからどんどんひずんでいくのかと思う。当然学校も親の対応をする時間が大分増え、そのために私たち教育委員会も学習指導対応が増えている。府中市の場合、PTA連合会がとてもしっかりしている。協力して、PTAも家庭教育学校というテーマを持ち、1年間を通じて研修や勉強をしている。PTAに参加する親と、例えば運営会議で話題になるような親とは多分相当違うと思いつつも、学校はそういったものを手広くやっていくので、子ども家庭支援センターとも一生懸命やっていかななくてはいけない。私が二十数年前、教員になったころはそういう連携はほぼなく、そういった意味では福祉と学校の連携というのは今後すごい大きな課題だと思う。

事務局 府中市の教育委員会は教育部と、文化スポーツ部の2つの部に分かれている。質問にある家庭教育学級、家庭教育については文化生涯学習課が所管し、年に2～3回家庭教育学級を開催している。また、家庭教育学級をPTAに委託し実施することや、公民館民館講座の一環として家庭教育学級も開催している。

会 長 今までの話を聞いて、市内で乳幼児の世代に限ったとしても、講座を多分100や200ぐらいやっているのでは。それを集めるだけでもいいかもしれない。府中市はどうなっているのか、どういう教育力を持っているのかを把握し、例えば保育園の強みは保育園でどんどん生かしてもらい、NPOの強みはNPOで生かしてもらいなど何かデザインしていくといいと思う。また、学校は物凄い勢いで、学習基盤となる家庭教育に力を入れざるを得ないというところでもあり、学校と福祉、保健部局との連携というのはとても急速に進んでいる。引き続き取り組みを強化していただきたい。

また、ショートステイを中学生や高校生世代の子どもたちが利用することはあるか。

事務局 2歳から18歳未満までを対象としている。

会 長 乳幼児や小学生のショートステイはよくあるが、中学生ぐらいになると減ったりする。実は日本ほど中高生を保護しない国はない。中高生の親はどんなに困っているか、中高生自身も自分の心の揺らぎを抑え切れなく、家にいたくないときがある。若干の期間、親と離れて生活し息抜きがあると、家庭の中でも何とかやっていけることもある。ショートステイの分野の課題になっているのは、思春期や中高生の子どもたちが親と分離を希望した際のショート活用の方が話題になっている。厚労省も中高生世代の要保護児童の保護をどうするかというところは意識し出している。

次に、自己評価の構造についての説明をお願いします。

(2) 府中市子ども家庭支援センター事業進捗状況について

ア 府中市子ども家庭支援センター事業進捗状況について、資料3に基づき、事務局より説明。

イ 質疑応答、意見等

会 長 子ども家庭支援センターの事業を評価するのは今回が初めてであり、詳細に課題まで出すことにより、実施している業務の実態と課題がリアルにわかるようになった。そして、今後の会議の進め方については、資料3に資料2の内容を組み入れる形で十分かと思う。

また、子育て応援団を代表してママチャリーズに参加いただいているが、団体の活動について説明いただきたい。

委 員 マママッチュというのは、ネズミのキャラクターで、私たちはママチャリーズという団体。NPOではなく、お母さんたちが何人か集まり全て持ち出しで活動している。

「てくてくひろば」は、8年ぐらい前から発行しており、自分たちで情報を集め、子育てサークルなど約30団体載せているが、年々掲載希望団体が増えている。その他、「てくてく府中」というホームページも開設している。府中の子育て情報サイトということで、サークルやひろばなどに取材に行き掲載している。お母さんたちがそれを見て、ここへ行こうかなと思えるようなところをつくろうと活動している。

先月、「はぐ」に取材に行き、こういうところをもっと紹介できたらと思う。同じような場所が市内にたくさんあり、個人で活動しているお母さん達もたくさんいる。支援をしたい側もたくさんいるので、そういう人たちをつなげる支援活動もしていきたい。

「広げよう！子育てひろばのわ」については、府中子育て応援団連絡会が、10年前に情報交換をしようということで集る。開始当初は10団体ぐらいで実施していたが徐々に規模が大きくなり、去年は700組ぐらいの来場があった。ここでも幼稚園や保育園の情報、市内の子育てひろばやサークルなどの子育て情報を紹介している。いろいろな情報を持って帰ってもらい活動のきっかけになってもらえればなというイベントを開催している。

会 長 先ほどのボランティア講座ではないが、ボランティア講座をつくるときに、「社会福祉協議会」や「たち」に相談するなど、参加者募集に協力してもらえるのではないか。社会福祉協議会では、コミュニティワークではなく、コミュニティソーシャルワークとここ最近言われ出している。どこが違うかというと、個別援助もする。つまり、今まで社会福祉協議会は、団体をつくりさまざまな業者に団体として支援活動や、事業を受託して実施する。今までは、地域の住民の団体をつくって支援をするということが多かったが、それ以外に個別で困っている親については、関係機関につなぐこともし、既にある関係機関の間隙を縫って活動するという使命も与えられている。

以上